

令和6年12月5日
(2024年)

吹田市立青山台小学校
校長 田淵 久美子

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

全国の児童・生徒の課題改善に向けた教育及び教育施策の成果と課題を検証し、児童・生徒の学力及び学習状況の改善を図るために、小学6年生(中学校では、中学3年生)を対象として、『全国学力・学習状況調査』が実施されております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、今年度の実施教科は国語・算数の2教科ですが、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

本校では8月下旬に、自らの学習到達状況を正しく把握するため、個人票とともに、問題用紙と正答例をあわせてお返ししました。

全国における調査を客観的に分析することにより、どのような指導形態がより効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体あるいは小学校・中学校における連続した取組みとなるよう、具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

吹田市教育委員会においても、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を分析し、吹田市教育委員会のホームページに掲載されております。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

(1) 国語

《各内容における成果と課題》

言葉の特徴や使い方に関する事項

全国値を上回っている

- ◎話し言葉と書き言葉の違いに気づくことができている。
- ◎学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができている。
- ◎文の中における主語と述語との関係を捉えることができている。

情報の扱い方に関する事項

全国値をやや下回っている

- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。

我が国の言語文化に関する事項

全国値をやや下回っている

- ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくこと。この事項には課題がある。

話すこと・聞くこと

全国値をやや上回っている。

- ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができている。
- ◎資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができている。
- ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題がある。

書くこと

全国値を下回っている。

- ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることに課題がある。
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

読むこと

全国値とほぼ同じである。

- ◎登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉えることができている。
- ◎人物像を具体的に想像することができている。
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。

◇国語科における成果と今後の改善点

【知識および技能】

- ◇「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」は、知識および技能の観点となります。
- ◇漢字を覚えて書くことや、簡単な文の構成は理解していますが、様々な情報や図表、語句や言葉等を通した多様な表し方を理解することに課題があります。
- ◇日常的に読書に親しむ環境が大切であり、上記、理解の獲得にもつながると考えます。

【思考力・判断力・表現力】

- ◇「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、思考力・判断力・表現力の観点となります。
- ◇目的に応じて話すこと、資料を活用するなどして、自分の考えを話すことはできていますが、それらのことを明確に書き表すことに課題があります。
- ◇文章を読む際に、何が書かれているかという内容面だけでなく、どのように描かれているのかという表現面にも着目することが大事です。物語などの全体像を具体的にイメージすることにもつながります。
- ◇記述式の問題や後半の問題に、無解答が目立ち、課題がみえます。

- よって、①言語表現の理解(知識および技能)
②効果的に書くこと(思考力・判断力・表現力)
③物語の全体像をイメージして読むこと(思考力・判断力・表現力)

以上、3点を国語科における重点課題と考え、以下の改善を図ります。

☆言語活動や表現活動を豊富に取り入れ「言語能力」の向上を図るとともに、充実感や達成感から自信につながるような、教育活動を行います。

☆モジュール学習(15分間の言語活動)の授業デザインを考え充実を図り、「書くこと」に重きを置き、子どもたちの語彙力獲得や言語能力の育成に励みます。

☆一人1台端末(iPad)を、より効果的に活用し、子ども自身が自ら学びたいと感じる授業改善に努めます。

☆問題の後半に多い無解答率は、粘り強さの課題であると考えます。
最後まであきらめずやり遂げることで、得られる達成感を味わえる取組みを重ねること、また、困難なことにも立ち向かう自信や気力を養うよう努めます。

(2) 算数

《各領域における成果と課題》

数と計算

全国値を上回っている。

- ◎問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができています。
- ◎数量の関係を、□を用いた式に表すことができています。
- ◎計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できている。
- ◎除数が小数である場合の除法の計算をすることができています。
・除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について、理解することに課題がある。

図形

全国値を上回っている。

- ◎直方体の見取図について理解し、かくことができています。
- ◎直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している。
- ◎球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができています。
- ◎角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できている。

変化と関係

全国値を上回っている。

- ◎速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できている。
- ◎道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できている。
- ◎速さの意味について理解している。

データの活用

全国値をやや上回っている。

- ◎円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができています。
- ◎簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができています。
- ◎折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できている。
- ◎示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できている。

◇算数科における成果と今後の改善点

- ◇16問の問題中、無解答率0%が3問ありました。
- ◇基礎的・基本的な知識や技能は身につけているが、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題があります。
- ◇数学的に記述(説明)する力に課題があります。
理論的・発展的に考察して数学的に表現することが必要です。

上記、3点を算数科における重点課題と考え、以下の改善を図ります。

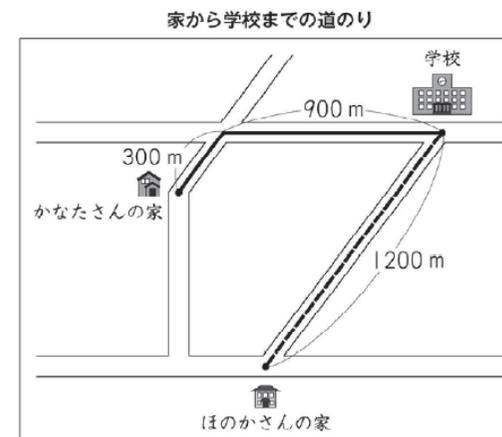
☆論理的な思考が身につくよう、授業において、子どもたちが多様な考え方に触れていく機会をつくっていきます。

☆問題を読み解く力や、記述(説明)する力は、国語科での「思考力・判断力・表現力」の力が必要であるため、さらに国語科授業の充実を図ります。

☆具体的な日常の場面に対応させながら、考えさせる指導を取り入れます。



〈算数科 ピックアップ問題〉



かなたさんとほのかさんは、それぞれ家から学校まで歩いて行きました。

家から学校までは左図のとおりです。家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べるとかなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん 2 ほのかさん

この問題では、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかを問うものです。

算数科の学習では、論理的に考えを進めて、それを説明したり、判断や考えの正しさを説明したりすることが大切です。この問題のように「理由」を記述する場合、ある事柄が成り立つことの理由を記述する必要があります。

この問題では、かなたさんとほのかさんのどちらが速いかを判断するために、それぞれが ①歩いた道のり と、②かかった時間 に着目します。

① かなたさんとほのかさんの道のりは等しいこと

かなたさんの家から学校までの道のりは $900 + 300 = 1200$
かなたさんとほのかさんの道のりは同じ。

② かなたさんのかかった時間が、ほのかさんのかかった時間より短いこと

かなたさんの歩く速さは $1200 \div 20 = 60$ 分速 60m
ほのかさんの歩く速さは $1200 \div 24 = 50$ 分速 50m
だから、かなたさんの方が速い。

かかった時間はかなたさんの方が短い。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんの方が速い。

①と②の2つの事柄を **ふきだし** に示したように、言葉と数で説明することが求められています。

青小っ子は、上記の問題も全国値はやや上回っています。ただ、様々な問いの中でも、このように、目的に応じて比べたり表現したりする方法を考察できる力には、課題が残ります。根拠を基に筋道を立てて考え、総合的、発展的に考える力を育むことが大切であると考えています。また、言葉の意味、働き、使い方など、算数科からも国語科の課題が繋がっていると感じています。

2 生活習慣や学習環境「質問調査」に関する分析

《学習環境・生活環境について》

《教科・学習について》

各教科における意識を問う設問

全国値を上回っている設問

- ◎国語の勉強は好きですか
- ◎算数の勉強は好きですか

全国値をやや上回っている設問

- ◎国語の勉強は大切だと思いますか
- ◎国語の授業の内容はよく分かりますか
- ◎国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか
- ◎国語の授業で違う点や似ている点を意識したり、図で示しながら、情報を整理していますか
- ◎国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか
- ◎国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか
- ◎算数の勉強は大切だと思いますか
- ◎算数の授業の内容はよく分かりますか
- ◎算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか

全国値とほぼ同じ設問

- ◎国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料をいくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか
- ◎理科の授業では自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

※ 英語に関する設問は、3問ありましたが、すべての設問で全国値を下回っている

教科学習全般における意識を問う設問

全国値をやや上回っている設問

- ◎道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

主体的に学び、表現しようとする「チカラ」を問う設問

- ☺ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていると、肯定的な回答が9割近くあり、全国値を上回っている。
- ☺ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している、肯定的な回答が8割以上あり、全国値を上回っている。
- ☺ 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる、肯定的回答は8割以上であり、全国値をやや上回っている。
- ☺ 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている、肯定的回答率は8割以上あり、全国値をやや上回っている。
- ☺ 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている、肯定的回答は9割近く、全国値をやや上回っている。
- ☺ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている、肯定的回答率は8割以上あり、全国値をやや上回っている。
- ・ 総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを、発表するなどの学習活動に取り組むことには課題があり全国値をやや下回っている。
- ・ 学習で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う、肯定的回答は約8割で、全国値をやや下回っている。

自分との違いを認め、対話を大切にする「チカラ」を問う設問

- ☺ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますかの設問では、8割以上の児童が肯定的である。
- ☺ 授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互い協力しながら課題の解決に取り組んでいると肯定的回答の児童が約9割いる。
- ・ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると、感じている児童は約8割いるがさらに増やしていきたいと考える。

個別最適な学び・協働的な学びに関する状況を問う設問

- ・ 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたかという設問、肯定的回答率は8割以上あるが、全国値をやや下回り、課題改善が必要と考える。

ICT を活用した学習状況を問う設問

5年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか

1. 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。
 - ・約8割の児童が肯定的回答をしているが、全国値をやや下回っている。
2. 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。
 - ・8割以上の児童が肯定的回答をしているが、全国値を下回っている。
3. 楽しみながら学習を進めることができる。
 - ・約8割の児童が肯定的回答をしているが、全国値をやや下回っている。
4. 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。
 - ・8割以上の児童が肯定的回答をしているが、全国値を下回っている。
5. 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。
 - ・肯定的回答は7割強で、全国値をやや下回っている。
6. 友だちと考えを共有したり比べたりしやすくなる。
 - ・8割以上の児童が肯定的回答をしているが、全国値をやや下回っている。
7. 友だちと協力しながら学習を進めることができる。
 - ☺️ 9割弱の児童が肯定的回答をしていて、全国値とほぼ同じである。

上記4つ以外の項目で、本校の教育目標や重点取組に係る「チカラ」を問う設問

- ☺️ 学校に行くのは楽しいと思うと肯定的回答をした児童は9割近くいて、全国値を上回っているものの、100%をめざしたい。
- ☺️ 自分にはよいところがあると思う肯定的回答率は9割弱で、全国値をやや上回っている。
- ☺️ 将来の夢や目標をもっている児童は約8割いて、全国値とほぼ同じである。
 - ・人が困っているときは、進んで助けている児童は9割いるものの、全国値をやや下回っている。
 - ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている児童は8割弱で、全国値を下回っている。
 - ・人の役に立つ人間になりたいと思っている児童は8割以上いるが、全国値をやや下回っている。
 - ・友だち関係に満足していると感じている児童は9割弱いるが、全国値をやや下回っている。
 - ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと回答した割合は9割以上いるが100%をめざしたい。

3 今後の取組み …… 「児童」をいつも通りの「子ども」にして記載します。

一人ひとりを大切に、誰一人も取り残さない幸せな学校づくりをめざします。

落ち着いた環境の中で、黙々と机に向かう、子どもたちの姿をよく見かけます。誰もが、集中できる雰囲気づくり・授業づくりは、とても大切です。今後も引き続き継続します。

重点取組「インプット インテイク アウトプット(自ら学び 自ら考え 自ら発信)を、さらに強化します。

本調査からもわかるように、思考したことや判断したことを表現(アウトプット)する力に課題があります。自分の思いや考え、あるいは目的等を、まとめて相手に分かりやすく伝える表現力は、将来と言わず、数年先には必要不可欠となります。目的や相手に応じたプレゼンテーションをする力がが必要です。

そのためには、授業でたくさんの「対話」をさせます。いわゆる「話し合い活動」がそれにあたりますが、ペア、グループ、学級全体など、多様な方法で積み重ねていきます。さらに、発表する機会を増やし、言語活動の充実を図ります。

また、コツコツ学ぶことが得意な子どもたちです。iPad の有効活用を考えさせ、アウトプットに活かされる技能を育み、学びの幅を広げられるよう充実を図ります。また、発達段階に応じたデジタルシティズンシップ教育の充実を図ります。

重点取組であるインクルーシブな学校づくりを柱に、教育活動全体を通して自尊感情や自己肯定感、人権意識を高め、いじめを許さない仲間づくりをめざします。

今年度、体験活動や異年齢活動等をとおして、子どもたちの自己有用感を高める取組みを実施してきました。子どもたちは、ある一定の達成感を持つことができました。このように有意義な活動は今後も継続します。

友だちとともに学び合い、喜び合う素晴らしさを実感させ、豊かな心・思いやりの心を育みます。道徳科の授業やいじめ予防授業の充実と研究を図ります。

今後ご家庭と連携しながら、教育活動を行います。

多様性を認め、個性を尊重し、ともに学びともに育つ 青小っ子を育みます。そして、今後も教職員一同、愛情たっぷりに子どもたちと関わっていきます。